地域医療支援病院 富山市民病院

れんけいと支援

No.234
2023.10月号

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,
Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1／Tel: 076（422）1112㈹ http://www.tch.toyama.toyama.jp／発行日 2023年10月

転移性骨腫瘍に対する緩和的放射線療法について

放射線治療科 今村　朋理

放射線療法には、がんの根治を目的とした根治的放射線療法とがんによる症状の緩和を目的とした緩和的放射線療法があります。がんによる様々な症状の改善を目的として緩和的放射線療法は行われますが、多くは転移性骨腫瘍に対する緩和的放射線療法です。転移性骨腫瘍は疼痛やしびれ、病的骨折や麻痺などの原因となり得るため、疼痛がある場合はもちろんのこと、疼痛が無くても脊髄圧迫の可能性がある場合や、荷重骨など病的骨折の可能性がある場合など、今後起こり得る症状の緩和を目的としても放射線療法は行われます。放射線療法は通院回数が多く、症状緩和が必要な患者さんに負担が多いと思われるかもしれませんが、転移性骨腫瘍に対する疼痛緩和率は単回照射（1回照射）と分割照射（5回～20回）で差がないことが報告されており、単回照射も普及しつつあります。そのため、頻回の通院が困難な患者さんでも2回来院可能であれば、緩和的放射線療法の施行が可能です（1回目は診察や治療計画、2回目に照射）。また、当院の放射線治療装置であるトモセラピーは、一度に複数の病変に対して放射線療法を行うことができる（図1、図2）ため、複数の転移性骨腫瘍に対しより短時間に治療を行うことができ、患者さんに対する負担が少ないと思われます。

がんに対する積極的治療による効果が期待できなくなり、症状緩和を主体とした医療、いわゆるベストサポーティブケア（BSC）に移行した場合、手術や化学療法といった積極的治療の一つであるという印象の強い放射線療法が選択されなくなるという懸念があります。がん性疼痛に対して麻薬製剤が処方されるのと同様、緩和的放射線療法もBSCの一つでありますし、麻薬製剤とは異なり、抗がん作用を有すること、有害事象も照射部位によってはほとんど生じないことからも有用な選択肢となると思われます。また、疼痛は無いものの、高リスク転移性骨腫瘍（荷重骨や脊椎など）に対し放射線療法を行うことで、放射線療法を行わず標準的なケアのみの患者さんに比べ、骨関連事象（病的骨折や脊髄圧迫、整形外科的介入など）の発生率が有意に低かったという報告が昨年の米国腫瘍学会でありました。今まで転移性骨腫瘍に対する予防的な放射線療法の効果ははっきりしておりませんでしたが、効果があるという根拠の一つになると思われました。また、この報告では全生存率も有意に高かったと報告されており、より「積極的」に緩和的放射線療法を行う必要があると考えられます。

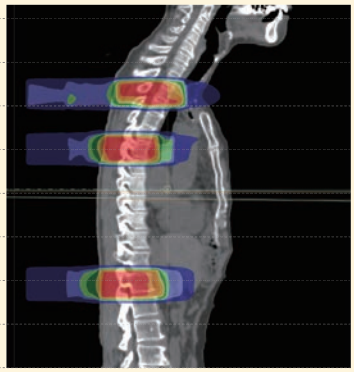

図1

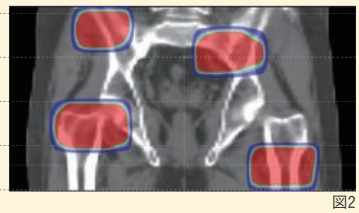

図2

研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日 時：11月14日（火）　19：00～20：00
場 所：当院3階　講堂

1）症例検討
『皮疹を契機に白血病が発見されたerythema gyratum repensの1例』
皮膚科　大村　尚美

2）ミニレクチャー
『SGLT2阻害薬の適正使用にむけて』
内分泌代謝内科　浅野　彰子

sodium glucose co-transporter 2（SGLT2）阻害薬は近位尿細管に発現するsodium glucose co-transporter Na/グルコース共輸送体であるSGLT2を阻害し、尿中への糖排泄を増加させることで血糖値を改善させるという新しい作用機序を有する2型糖尿病薬として2014年4月17日に初めて発売された。2型糖尿病患者を対象としたSGLT2阻害薬の有用性を検証したRCTで心血管アウトカム、腎アウトカムに対する有効性が示され、その後、2型糖尿病の合併の有無を問わず心血管アウトカム、腎アウトカムに対する有効性が示された。こうして、SGLT2 阻害薬は、心不全患者、慢性腎臓病患者の標準的治療薬の一つとしてその使用機会が増加した。また1型糖尿病患者においてもインスリンとの併用が認められている。

しかし副作用や有害事象として糖尿病治療薬に共通する低血糖に加え、正常血糖ケトアシドーシス、脱水、皮膚症状、尿路感染症・性器感染症、サルコペニア・フレイルなどが報告されている。今後も副作用や有害事象には注意が必要であり、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本循環器学会、日本心不全学会から適正使用に関するRecommendationが発表されている。当院での症例経験を踏まえ、SGLT2阻害薬適正使用に向けて注意すべき点について報告する。

予告

12月は症例検討2例、ミニレクチャー1題の拡大版で開催いたします。
先生方のご参加をお待ちしております。

日　時：12月12日（火）　19：00～20：30（ハイブリッド開催）
場　所：当院3階　講堂
内　容：①症例検討　　2例（担当）泌尿器科、緩和ケア内科
　　②ミニレクチャー　1題（担当）形成外科

作：病院ボランティア 篠崎 佳子

連携充実加算について

薬剤科がん化学療法係　廣上、石原、網谷、竹田

近年、がん化学療法は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの新薬が次々と登場し、目覚ましい発展を遂げています。それに伴い副作用は多様化・複雑化し、外来で実施されることが一般的となったがん化学療法を、患者さんが安全に安心して受けることができる環境の整備が求められています。重要とされているものの一つとして、病院と地域の保険薬局が連携し在宅での療養をサポートすることで、副作用の早期発見や重篤化を回避することがあります。その取り組みに対する評価として、令和２年度診療報酬改定において連携充実加算が新設されました。当院でも令和２年６月より算定を開始し、対象となるすべての患者さんに治療の内容や副作用の発現状況などを記載した情報提供書をお渡しし、状態を踏まえた必要な指導を行っています。また年に一回、保険薬局に勤務する薬剤師を対象とした研修会を実施しています。

外来がん化学療法を受ける患者さんへの支援は、受診時点のみとなることが多く、在宅での継続的な状態把握やきめ細かい支援を行うことが困難な状況にあります。そのため、かかりつけ薬剤師が在宅での状態を継続的にフォローアップして得られた情報を、「トレーシングレポート（がん化学療法情報提供書）」として、主治医に報告していただけると幸いです。当院と地域の保険薬局が連携を強化することで、より安全・安心な外来がん化学療法が提供できるように尽力して参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ミキシング

外来治療室

医師不在のお知らせ　11月

※外来担当日の休診のみ掲載

科名	医師名	不在日
内科	桶家	1日
	曽根	6日
産婦人科	長谷川徹	2日
	廣兼	20日
精神科	長谷川雄	17日・24日
小児科	和田拓	2日
	西橋	17日
皮膚科	野村佳	24日、30日
	大村	20日

科名	医師名	不在日
脳神経外科	毛利	24日
呼吸器・血管外科	湖東	30日
	明元	2日
	酒井	24日
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	児島	2日
	杉本	28日
歯科口腔外科	寺島	1日、2日
	朽名	10日、15日、24日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112（代）内線2168

編集後記

先日、小学校にホウセンカを見に行きました。娘が夏休みに持ち帰った時、近所の同級生の誰のよりも小さく細く、クラスで一番小柄であるらしい娘の、これまた小柄なホウセンカでした。色々調べ、肥料を足してみたり、置く場所を変えたり・・・。娘も毎朝欠かさず水やりをしました。そのうち、ぐんぐん伸びて茎も太くなり、葉も増えて緑が濃くなりました。葉の間に小さなつぼみをつけ、9月のはじめにようやくピンクの花を咲かせました。大切に育てたホウセンカ。二学期に学校へ持って行くときは寂しくさえありました。娘の案内で、久しぶりに再会したホウセンカは、秋になり時期を終えた他のホウセンカの中で、まだ頑張ってピンクの花をつけていました。遅咲きのホウセンカに元気をもらった日曜でした。

リハビリテーション科　沖　理恵

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076（422）1112㈹／FAX 076（422）1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ http://www.tch.toyama.toyama.jp/　がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp